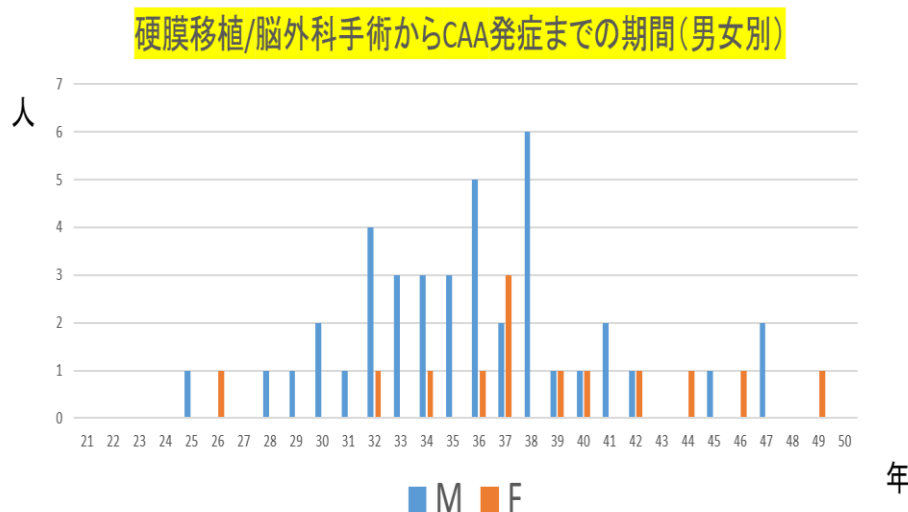
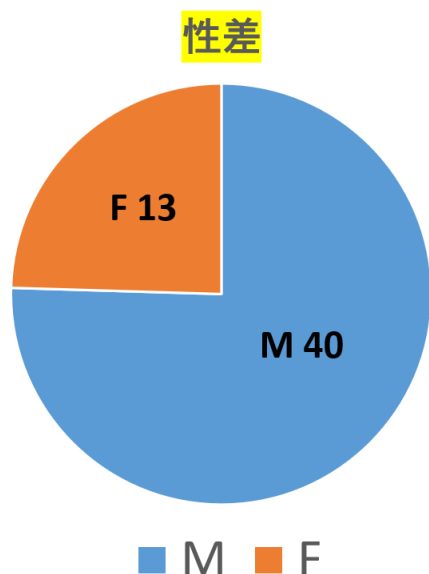


医原性脳アミロイドアンギオパチー発症に関わる宿主要因の検討

研究代表者：九段坂病院内科（脳神経内科） 山田正仁

医原性脳アミロイドアンギオパチーにみられる性差とその影響



手術から発症までの期間[中央値 (平均値±標準偏差)]	
男性 (n = 40)	36.0 (35.2 ± 6.4)*
女性 (n = 13)	37.0 (38.4 ± 6.0)*

* 0.100 by Mann-Whitney U test

解 説

1. 医原性脳アミロイドアンギオパチー (iCAA) 発症 (年齢 < 55歳) (n = 53) に関わる宿主側の要因を検討した。
2. iCAA報告例は男性に多かった (男:女 = 3:1) (左図)。
3. 硬膜移植/脳外科手術の年齢、iCAA発症年齢、手術から発症までの期間の性差をみると、手術時年齢とiCAA発症年齢に差はなかったが、手術から発症までの期間が男性で短い傾向があった (右図・表)。
4. 硬膜移植/脳外科手術時の宿主の年齢差、宿主のアポE遺伝子型の違い によって iCAAの病像に違いを認めなかった。
5. iCAA発症が男性で多いのは幼小児期における硬膜移植/脳外科手術が男性で多く行われてきたことと主に関連している可能性がある。